

メトアナ配合錠オンデマンドセミナー

ご自宅、病院、診療所などから、インターネットを通じてご視聴いただけます。

社会経済的視点から考えた 糖尿病治療の重要性



愛媛大学 総合健康センター 教授

古川 慎哉 先生

| 略歴 |

平成9年3月 愛媛大学医学部医学科卒業
平成10年6月1日 済生会松山病院 内科 医員
平成12年6月1日 宇和島社会保険病院 内科 医員
平成18年1月1日 愛媛大学医学部附属病院 第三内科 助教および特任講師
平成23年7月1日 愛媛大学医学部附属病院 第三内科 講師
平成25年2月1日 愛媛大学大学院医学系研究科 公衆衛生・健康医学 准教授
平成27年4月1日 愛媛大学大学院医学系研究科 疫学・予防医学 准教授(名称変更)
平成31年4月1日 愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学 准教授
令和2年4月1日 愛媛大学 総合健康センター 教授

オンデマンド配信

配信
期間

2022年4月13日(水) 12:00
～ 4月27日(水) 23:59

配信
時間

30分(予定)

抄録

日本の国民医療費は年々増加し、令和2年度の概算医療費は42.2兆円で¹⁾、調剤医療費に目を向けると糖尿病を含む「その他の代謝性医薬品」は増加している。糖尿病は合併症の治療や予防のための検査が必要であり、他の生活習慣病よりも医療費が高額²⁾となる。そのことを糖尿病患者は負担として感じており、治療継続や強化の妨げとなるという懸念が生じる。糖尿病治療の質を低下させることなく、医療費の患者負担を軽減する手段として、薬効が同じであれば薬価の安い薬剤を選び、単剤併用よりも配合剤を選択する。負担を軽減することで治療中断を防ぎ、クリニカルイナーシャに陥ることなく適切な治療強化を行うことが可能となる。

本講演では、令和4年度診療報酬改定後の新薬価も提示し、患者に寄り添った糖尿病治療と薬剤選択について論じたい。

1) 令和2年度医療費の動向 厚生労働省、2) 糖尿病61(6):382-388,2018